

## 第 18 回遠州広域行政推進会議 議事録

- 1 日 時 令和 2 年 1 月 28 日(火) 15 : 30~17 : 00
- 2 場 所 クリエイト浜松 4 階 セミナールーム A・B
- 3 出席者 浜松市長 (座長)、磐田市長、掛川市長、袋井市長、湖西市長、御前崎市副市長、菊川市長、牧之原市副市長、森町長
- 4 概 要 以下のとおり

### 議題

#### (1)外国人材の受入拡大に伴う多文化共生社会の推進について

資料 2 に基づき、事務局から説明。

その後、意見交換を実施。

- 【袋井市長】以前、浜松市長に、アクトシティのホールを 1 週間に 1 回、「袋井の日」として負担金を払って袋井市民に使わせてくれればという話をしたことがあったが、資料 2 のうち、特に、検討テーマ 1 のやさしい日本語の活用促進について、やさしい日本語を教える人たちの養成が大変なため、負担金を払ってもいいので、浜松市が実施している養成講座に参加させてもらうことはできるのか。
- 【事務局】それは十分可能である。
- 【浜松市長】広域で人材育成の研修を行うことが、まずは一番取り組みやすいと思う。
- 【湖西市長】今は養成講座を単独で実施している。
- 【袋井市長】教える人もお年寄りになってしまっているが、若い人が先生になるようにしないといけないので、浜松市で実施している講座を活用させてもらえるとうれしい。
- 【浜松市長】自治会の情報交換は、広域で行った方がいいかもしれない。
- 【湖西市長】外国籍の人が多い地域には偏りが無いのか。浜松市ではどうか。
- 【浜松市長】当然偏りがある。南の方と、高丘地区などに多い。
- 【事務局】大規模な公営住宅がある地域。戸建てを購入される方も、コミュニティや同郷の方がお近くにいることの心強さを求めている。
- 【湖西市長】湖西市内でも、公営住宅や新興の比較的安い戸建てのところ偏っているため、そういうところの自治会役員は、共通の悩みがあるかもしれない。
- 【袋井市長】自治会役員も彼らと一緒にになりたいが、お互いに踏み出せない。外国人の人数が多いと余計に固まってしまう。そのあたりのノウハウは先進地にあるのか。自治会の役員同士、役員で困っている人が集まって

話すのか、どうするのがいいのか。

- 【湖西市長】自治会長でなくても、ブラジルの方やそういう方がいるところの町内会長くらいで。
- 【浜松市長】日本の生活に慣れた方がそのような中に入れるといい。
- 【袋井市長】外国籍の方を役員にするということか。
- 【湖西市長】町内会長や副会長をやってもらおう。中にはそのような自治会もある。
- 【袋井市長】賢いやり方だ。
- 【掛川市長】先ほど、国際交流センターが防災に積極的に関わりを持って行動しているとの話があった。外国人住民に防災訓練に参加してもらおうよう取り組んでいるが、外国人の中で防災リーダーを育てるためのリーダー養成講座を、単独ではなかなかできない。広域的に集めて防災リーダー養成講座を実施していただければありがたい。市単独ではなかなか人数が集まらない。
- 【浜松市長】そのような取組の浜松市での実施事例は。
- 【事務局】外国人の防災リーダーの講座を実施している。
- 【浜松市長】それを、会場を広くして、一緒に研修を受けてもらえばどうか。
- 【袋井市長】袋井市は、ブラジル国籍の人を正規職員にして、彼を説明員にして各地域を回っている。もう1年くらいたった。
- 【掛川市長】外国人も地震や津波への関心は高いが、実際どのように自分が動いていいかというところは、日本人の自主防災の人ではなかなか通じない。外国人の集まりの中で、外国人自身がリーダーシップを発揮してまとめていくことも、自主的にやってもらいたい。
- 【浜松市長】一番外国人比率が高い菊川市はどうか。
- 【菊川市長】一番多い地域は、12~13%いるが、地域の人が一生懸命やってくれているので、コミュニティがうまくできている。最近一番心配なのは教育。掛川市、御前崎市と3市で日本語指導に取り組んでいるが、なかなか難しい。また、防災対策と、病院・医療にかかわること、この3つが頭を悩ませているところである。本日の資料に、地域共生、防災のことが書かれていたが、教育も考えてもらえればいいと思う。ぜひ広域で進めてもらいたい。
- 【袋井市長】浜松市は、就学前の外国人の子供の教育にどう取り組んでいるか。
- 【事務局】就学前の子供たちが学校生活になじめるよう、日本語の教育を行うプレスクールを今年度から開催する。学齢期に達するまで日本で生活した子供もだが、学齢期の年齢で日本に住むようになってすぐさま小学校ではなく、小学校での取り出し教育もあるが、慣らしの意味でのプレ、そ

の機会に対する日本語教育も必要ではないかという指示を市長からはいただいております、教育委員会で検討している。

- 【袋井市長】日本語が十分ではない両親のもとで育っている学齢期の子供はどうしているか。
- 【事務局】不就学になってはいけないため、不就学ゼロ作戦を行っている。また、普通の授業では、日本語能力がなくなつていけないので、補習のような形で学校ごとに実施している。
- 【御前崎市副市長】マンパワーの確保はどうしているのか。
- 【浜松市長】支援員を派遣している。
- 【菊川市長】菊川市はNPO 法人が運営する「虹の架け橋」という教室があり、そこで外国人の子供が半年間を目途に日本語を勉強し、学校へ送り出している。
- 【御前崎市副市長】虹の架け橋事業で、就学前に半年くらい指導して、日本になじんでいただく。教育委員会でも好評で、必要性を高く評価している。
- 【掛川市長】義務教育なので、就学前に一定の日本語ができる、あるいは日本の生活になじめるように県が取り組むべきだ。
- 【袋井市長】子供にとっても、学校にとっても必要だ。
- 【牧之原市副市長】牧之原市も、幼稚園～小中学校で、バイリンガル等を採用してやっているが、単独の市だけで対応するのは厳しい。県と一体となってやっていきたい。
- 【湖西市市長】学校ごとに違ってしまふ。国際交流協会でもまとめてやっているが、レベルがばらばらになってしまうので、統一的な基準でできるとよい。
- 【袋井市長】学校に入る前に県の機関でやってもらえれば、学校現場も喜ぶ。
- 【湖西市市長】来たばかりですぐ小学校に行っても、全然日本語がわからないということが増えている。
- 【掛川市長】義務教育として県は就学前から指導にあたってほしい。
- 【浜松市長】人材育成や情報交換、講座は広域で取り組み可能と感じた。引き続き事務レベルで詰めて、次回報告いただくとともに、教育の問題はまた考えないといけない。ぜひ課題提起をしていただければと思う。

資料 3 に基づき、静岡県くらし・環境部理事 河森様から静岡県の取組について情報提供。

- 【掛川市長】資料 3 の日本語指導のための教員（非常勤講師）の配置について、掛川市は「新規非常勤配置計画数」が 2、「配置済み数」が 2 と、他市町に比べて少ないが、どういう意味か。「加配教員で対応できない外国

人生徒がいる市町村単位で、非常勤講師を1人配置」とあるが、掛川市の場合は、加配教員で対応できているという意味か。

- 【河森理事】加配教員の基準として、外国人の子供が10人を超える場合に1人配置となっており、掛川市の場合は不足数が2人だったという意味である。不足している2人分について今回配置をしたものである。

## (2) 移住定住の促進について（遠州広域婚活事業）

資料4に基づき、事務局から説明。

その後、意見交換を実施。

- 【浜松市長】酒の提供も可にしてはどうか。
- 【事務局】検討する。
- 【浜松市長】通常はどうか。
- 【湖西市長】飲まない人が多いし、湖西市で開催する場合も大体酒の提供はない。雰囲気重要である。先日、浜名湖競艇で実施したところ、雰囲気が明るくて良く、前回、浜名湖れんが館というムードのあるところで開催した時よりも、明るい雰囲気で話しやすかったとの好意的な意見があった。
- 【浜松市長】（掛川市から提供された「掛川市おせっかい婚活サポーター」の資料を見て）掛川市はすごい。
- 【掛川市長】行政がこういうことに関わっていいのかという恥ずかしさと疑問があったが、掛川市の30代男性の40%も未婚ということを考えると、本格的に考えていかないと。少子化をみんな考えていかないと、人口が減少し、社会保障もたない。おせっかい婚活サポーターは、現在12人いる。成果はまだあがっていないが、そこまでやるくらいの努力をしないと、どんどん子供の数が減ってしまう。掛川市の子供の数は、今年、外国人を除くと900人を切っている。つい5年程前は、1000人を切ると困るなど言っていた状況であった。掛川市だけでおせっかいおばさんを養成して、掛川市だけでマッチングを行っても無理がある。広域的に、西部地域くらいでマッチングできればよい。行政も本気でやらざるを得ない状況にあるのではないかと思う。
- 【浜松市長】おせっかい婚活サポーターはどういう人か。研修を受けているのか。
- 【掛川市担当課長】研修を受けている。年齢も30代～70代で幅広く、男女を問わない。
- 【浜松市長】浜松市はシルバー人材センターに委託しているはずだが、何人くらい養成したのか。掛川市も10名くらいいるのだから。

- 【事務局】常勤で4名配置。登録された人は18名。
- 【浜松市長】そういう意味ではない。待っていて相談を受けるのではなく、出て行っておせっかいやかないと全然だめだ。
- 【掛川市長】行政のスタンスで考えると、職員はなかなか前に進みにくいと思うが、そこを乗り越えるくらいの気持ちでやらないと、おせっかいおばさんが一緒になってやらないとつらいかもしれない。
- 【磐田市長】磐田市は直営で婚活事業をやっているが、最初はお膳立てをしすぎてだめだったが、放っておいたら成婚した。その代わりバーベキューのように、みんなで参加できるやり方にした。ここへ連れて行って、こうしてこうしてというのではだめだった。今、若い職員がコミュニケーション不足と言われているので、職員研修も兼ねてやったらどうかと言っている。何組か成婚している。
- 【森町長】参加費は、男性3,000円、女性1,500円というのが相場か。
- 【事務局】それほど高くはないと思う。民間はもう少し高いと思う。
- 【浜松市長】これは実費か。
- 【事務局】実費である。参加者から徴収する。資料に書いてある参加費は、前回徴収した金額である。
- 【浜松市長】会場を固定して、酒も出さないのなら、それほどかからないのではないか。
- 【事務局】前は、天浜線や空港とさまざまな場所に移動して、お土産も出した豪華なプランだったため。
- 【浜松市長】何かご希望はあるか。(→他首長からの意見なし)